



てづくりハザードマップのまち歩き作業。まずは...

# 水害時のもしもに備えるため、危険な場所を撮影する準備をしよう！

# 危険な場所などを撮影して投稿！スマホを設定して、まち歩きしよう。

1, 2の準備ができたなら...

## 1. 作業の前に。手づくりハザードマップって、なに？

### (1) 手づくりハザードマップって？

・安城市から各世帯に配布されている水害ハザードマップを、自らのこととして理解し、マップの活用の際に的確な判断ができるように、里町のみんなでまち歩きを行い、経験した水害の話や、大雨のときに注意すべきことなどについてまとめるものです。水害に強い地域づくりとなることが目的です。

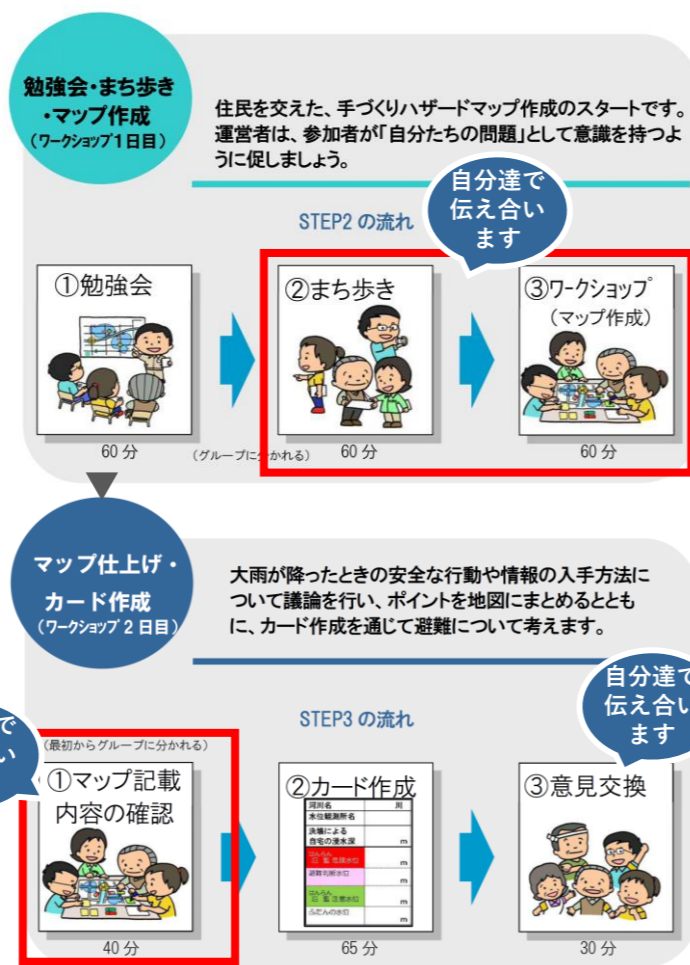
・まとめたこと、水害時にどう避難するべきか、里町の人々で考え、伝え合います。

### (2) みんなで何をするの？

・まず、各自でまち歩きをおこなってもらいます！

通常はグループに分かれて、みんなで歩きながら写真を撮りながら、会議室に集まって地図を作っていきます。みんなで集まり、みんなで写真の場所を思い出しながら地図を作りますので、集まったり（写真の場所を）忘れてしまうなど、負担がかかります。

ただし！我々NPOはこの手間をスマホをつかって減らしていきます。スマホをつかって各自で写真を撮り、こちらで地図にするので、集まったり忘れてしまう負担がなくなります。



## 2. まち歩きの前に。スマホの設定をしましょう！

### ★写真に位置情報が載るように設定します。

【注意！】できていないと地図化できなくなります。必ず行って下さい。

#### androidの場合

※①②を。

#### ①位置情報をチェック。



#### ②カメラ設定で位置情報を保存にチェック。



里町の手づくりハザードマップ専用サイトはこちらから。

・iOS含む位置情報の設定方法、まち歩き結果が確認できます。  
・ブックマークを！



#### iosの場合

※サイトで確認を。

## 3. まち歩きを行って、危険な場所などを撮影しよう！

空いた時間で里町で下記の箇所を撮影していきます。※注意！位置情報設定を忘れずに行うこと。

### ★浸水の様子や一時避難所



①地域の中で早く浸水する箇所  
避難時に避けるべき箇所。一方で、地域の危険を知らせる信号にも。この箇所が浸水したことを地域全体で共有できると、地域の安全確保に役立ちます。



②一時避難できそうな高い建物  
ゼロメートル地帯など、地域全域が浸水する可能性のある地区では、一時避難は非常に有効。



実際に歩くときは...  
★堤防高や標高を意識しましょう！  
★水の来る方向を常にイメージしながら歩きましょう！

### ★避難の際に危険となる箇所



③凸部分  
浸水時に危険となる突起物。浸水すると足元は見えなくなり、このような突起物はつまずく危険があります。



④凹部分  
フタの無い側溝・小河川、マンホールなど。浸水して足元が見えなくなり、小河川に流されて命を落とすケースが見られます。フタの空くマンホールなどにも注意してください。



⑤水が流れている箇所  
水が溢れやすい箇所ので、避難の際に足元をすくわれる可能性があります。

## 4. 撮影した写真を投稿しよう！

下記サイトで、写真やコメントを投稿します。



- ・メールアドレス
- ・お名前 (ハンドルネームでも可能)
- ・所属町内会
- ・写真の特徴 (上記の6つのうち、どれか)
- ・コメント (必要に応じて)

里町の手づくりハザードマップ専用サイトはこちらから。

- ・位置情報の設定、まち歩き結果が確認できます。
- ・ブックマークを！





# 歩いて撮影する前にチェック！里町内会、まち歩きのポイント。

ほっぷ、まずは、里町で想定される水害の特徴を理解しよう！



## A 猿渡川の氾濫による浸水想定区域

- 浸水深は0.5~1.0m程度と比較的浅いため、
- 自宅待機する（2階へ避難する）方が安全な場合が多いと考えられます。

## B 矢作川の氾濫による浸水想定区域

- 浸水深は1.0~3.0m程度と比較的深く、木造家屋は氾濫流により倒壊する恐れもあるため、
- 安全な場所へ避難する必要があります。

すてっぷ、安全な避難場所を探そう！

市の指定避難所として北部公民館は開設されますが、収容人数は限られ、浸水により途中で使用できなくなる可能性があります。

そのため、他に避難できる場所が必要です。

水害ハザードマップ上、浸水しない所又は浸水が浅い所（標高が高い所）で「②一時避難できそうな高い建物（※）」を探してみましょう。

※浸水は概ね12時間以内に解消されるため、急場を凌げる場所で大丈夫です。

### ★浸水の様子や一時避難所



①地域の中で早く浸水する箇所  
避難時に避けるべき箇所。一方で、地域の危険を知らせる信号にも。この箇所が浸水したことを地域全体で共有できると、地域の安全確保に役立ちます。



②一時避難できそうな高い建物  
ゼロメートル地帯など、地域全域が浸水する可能性のある地区では、一時避難は非常に有効。

実際に歩くときは...  
★堤防高や標高を意識しましょう！  
★水の来る方向を常にイメージしながら歩きましょう！

### ★避難の際に危険となる箇所



③凸部分  
浸水時に危険となる突起物。浸水すると足元は見えなくなり、このような突起物はつまづく危険があります。



④凹部分  
フタの無い側溝・小河川、マンホールなど。浸水して足元が見えなくなり、小河川に流されて命を落とすケースが見られます。フタの空くマンホールなどにも注意してください。



⑤水が流れている箇所  
水が溢れやすい箇所ので、避難の際に足元をすくわれる可能性があります。

じゃんぷ、避難する際に危険となる箇所を探そう！

北部公民館や各自で探し当てた安全な避難場所へ向かう道で「①地域の中で早く浸水する箇所」、「③凸部分」、「④凹部分」、「⑤水が流れている箇所」を探してみましょう。

気になることをメモしておこう！

実際に歩くときは...堤防高や標高を意識しましょう！・水の来る方向を常にイメージしながら歩きましょう！さあ、まちを歩こう！